



## 九月定例会

昭和六十一年九月北九州市議会定例会を九月四日から九月二十九日までの二十六日間の会期で開きました。

今議会に市長から提出された議案は、六十年度決算関係議案二十五件、条例議案八件、六十一年度補正予算議案五件、人事議案三件、その他の議案十二件の合計五十三件でした。

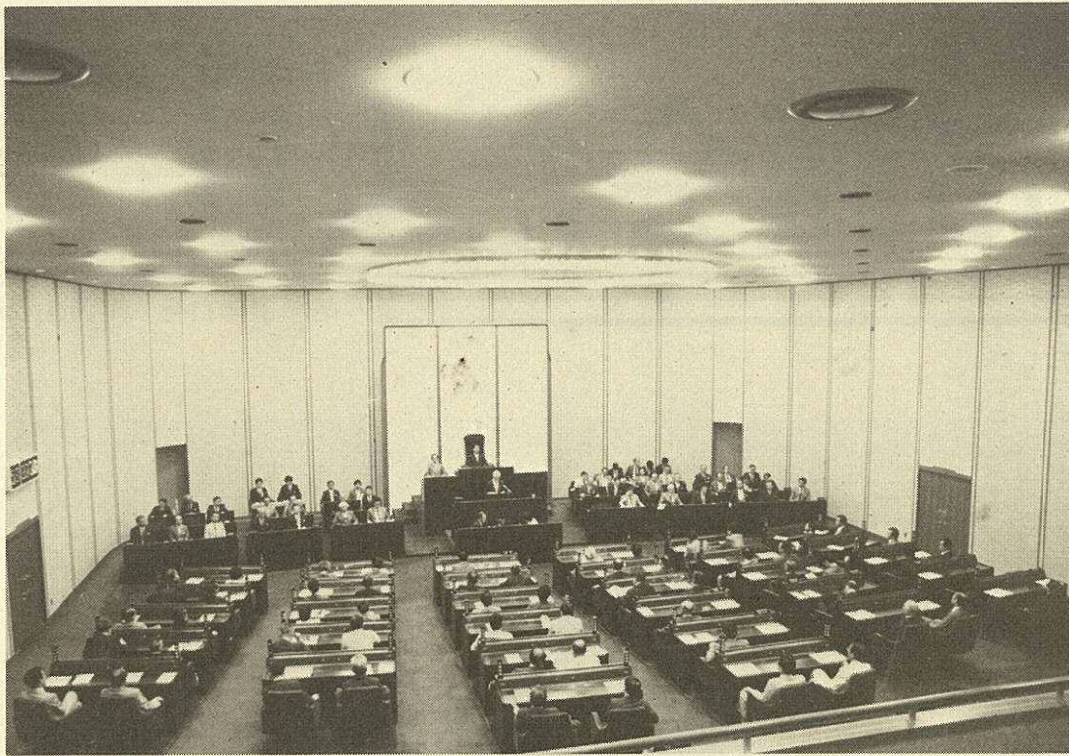
本会議において、これらの議案について質疑を行った後、決算関係議案を決算特別委員会に、その他の議案を所管の常任委員会に付託し、慎重に審査しました。

その結果、決算関係議案を九月二十四日の本会議で認定し、その他の議案を九月二十九日の本会議において、すべて可決しました。

一方、議員から提出された議案は十件で、そのうち「心身障害者、高齢者に対する雇用対策の拡充強化に関する意見書」など、六件を可決し、四件を否決しました。

# 60年度各会計決算を認定

## 補正予算は37億円を追加



### 昭和60年度 北九州市決算状況

区分	一般会計		普通特別会計 (国保など18会計)		企業会計 (上水道など5会計)	
	歳入 ①	歳出 ②	歳入 ③	歳出 ④	歳入 ⑤	歳出 ⑥
歳入 ①	3,497億6,933万円	3,436億 220万円	2,558億1,560万円	2,537億8,314万円	903億6,164万円	1,021億2,801万円
歳出 ②	61億6,713万円	12億3,678万円	20億3,246万円	3,000万円	△117億6,637万円	△117億6,637万円
形式収支 ①-②=③	12億3,678万円	49億3,035万円	20億 246万円	20億 246万円	補てん財源等④	116億2,014万円
繰り越すべ き財源④	49億3,035万円	20億 246万円	20億 246万円	20億 246万円	単年度実質収支 ⑤+⑥	△ 1億4,623万円
実質収支 ③-④	49億3,035万円	20億 246万円	20億 246万円	20億 246万円	単年度実質収支 ⑤+⑥	△ 1億4,623万円

決まった主なもの

市長提出

- ◎六十一年度北九州市補正予算  
○一般会計 二七億三、八〇八万円
- 普通特別会計 七億一、二二七万円
- 企業会計 三億二、六〇〇万円
- 総額 三七億七、六三五万円
- ◎北九州市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例等の一部改正  
公有地への土地信託制度の導入を内容とする地方自治法等の一部改正に伴い、関係規定を改めるもの
- ◎北九州市水と緑の基金条例  
都市緑化の推進及び水辺環境の整備を図り、もって市民の生活環境の向上及び緑化意識の高揚に資するため、基金を設置するもの
- ◎新食肉センター工場棟建設工事  
請負契約締結  
契約金額 八億六、二〇〇万円
- ◎本城公園陸上競技場メインスタンド新設工事請負契約締結  
契約金額 四億 三〇〇万円
- ◎文化記念公園プール管理棟新築  
工事請負契約締結  
契約金額 二億七、二〇〇万円
- ◎字の区域の変更及び町の区域の設定  
山田弾薬庫跡地利用計画を実施するに当たり、字の区域を変更し、新たに町の区域を設定するもの
- ◎はしご付消防自動車の取得  
はしご付消防自動車(三〇メートル級)を買い入れるもの

### 議員提出

- ◎心身障害者、高齢者に対する雇用対策の拡充強化に関する意見書
- ◎異常円高に伴う中小企業救済対策を求める意見書
- ◎九州旅客鉄道株式会社(仮称)の本社に関する意見書
- ◎非課税貯蓄制度の存続を求める意見書
- ◎国民健康保険制度の改善に関する意見書
- ◎所得税減税等に関する意見書

### 人事紹介

- 九月定例会において、次のかたがたが決まりました。(敬称略)
- 北九州市人事委員会委員  
川崎 陸夫
  - 北九州市固定資産評価員  
田和 廣美
  - 北九州市固定資産評価審査委員会委員  
芳賀 晟寿 佐々木十次郎  
田中 正弘

### 北九州市民憲章

緑を豊かに  
清潔で美しいまちにします  
きまりを守り  
安全なまちにします  
人を大切に  
ふれあいの輪をひろげます  
元気で働き  
明るい家庭をつくります  
学ぶ楽しさを深め  
文化のかおるまちにします



### 質疑 応答

本会議で十六人の議員が、市長から提出された議案に対する質疑や、市政全般についての質問を行いました。  
その中から主なものを取り上げました。

### 八幡国際村構想の実現を

— 国際研修センター —

議員 国際研修センターの建設決定に伴い、地元では、このセンターを中核として八幡駅前から平野町一帯を国際交流ゾーンとする八幡国際村構想を掲げています。この構想の一環として、八幡大学国際経済学部を設置計画が報道されています。

学部の増設は、本市の活性化に大きな影響を与えていると思いますが、どのような対応を考えていますか。また、国際研修センターの建設は、どのようになっていますか。  
市長 八月初旬に、八幡大学から国際経済学部の設置について、協力要請を受けました。

指定都市における大学の新・増設は規制されていますが、文部省に対して、特別な配慮をいただくと陳情しています。  
今後とも、学部増設の実現に努めていきたいと考えています。  
経済局長 国際研修センターの内容、規模については、現在、外務省、国際協力事業団で検討を進めている段階です。  
スケジュールでは本年度に用地

取得を行い、六十二年で着工、六十四年度には開設の予定だと聞いています。

また、周辺の環境整備、研修員の受け入れ、接遇体制の整備・充実等については、国際協力事業団、北九州国際研修協会や地元の関係者と十分協議し、具体的に決めていきたいと考えています。

### 市税徴収率の向上を

議員 市税は、市政の根幹をなすものであり、その徴収率向上は非常に重要な課題です。  
本市においては、徴収率が年々低下し、六十年では九十六・四パーセントで、前年度よりも〇・三パーセント減になっています。

徴収率向上のため、どのような対策を講じていますか。  
市長 市税の確保については、従来から積極的に取り組んでいますが、長期にわたる景気の低迷、個人所得の伸び悩み等から徴収率は年々低下しており、誠に遺憾なことだと考えています。

この対策としては、口座振替の加入勧奨、新規滞納者に対する納税指導の早期着手、滞納者の所在

や財産状況調査の徹底等を重点に取り組んでいます。

また、徴収率の向上を図るため専任の主査を配置し、担当助役を長とする市税対策会議を設置するなど、徴収体制を強化しています。さらに、研修等により納税指導に当たる職員の資質の向上を図っています。

今後とも、徴収率の向上に努めていきたいと考えています。

### タコマ通り

— ノーフォーク広場を整備 —

議員 姉妹都市との友好のシンボルとして、西日本総合展示場の東側道路を「タコマ通り」、和布刈公園内の広場を「ノーフォーク広場」と名付け、整備を行うとのことですが、どのような内容になっていますか。

建設局長 タコマ通りは、国道百九十九号線の浅野交差点から海岸までの歩道を六百三十メートルにわたってカラー舗装し、タコマ市のイメージにあつた照明や街路樹を配置します。

さらに、西日本総合展示場入口に花時計を設け、国際通りにふさわしい歩道にする計画です。

また、ノーフォーク広場は、国際海運会館の周辺約七千平方メートルをノーフォーク市の港の広場のイメージにあわせてブロック舗装や照明などを整備し、国際色豊かな広場にする予定です。

なお、この広場には、ノーフォーク市から贈呈される予定のブロンズ製の市章を設置することになっています。

### 通行料金の検討を

— 都市高速道路 —

議員 現在開通している都市高速道路の西港・若園間は、通行車両が見込みより非常に少なく、一日約一万台となっています。

近く、若園・横代間約二キロメートルが開通すると聞いていますが、通行量を増やすには、料金の見直しが必要だと思えます。

料金改定について、どのように考えていますか。

都市計画局長 都市高速道路の通行料金は、供用区間が短いため、他の有料道路と比較した場合、割高となっています。

そのため、利用台数は、当初の見込みを下回っている状況です。料金改定に当たっては、多くの市民に利用していただくため、現行料金のすえ置きを含めて、できるだけ安い料金で認可されるよう国と事前協議を行っています。

なお、若園・横代間については、年内に供用開始ができるよう努力しているところです。

### せせらぎのある河川公園

— 八幡西区金山川 —

議員 金山川の旧河川敷に、大規模なせせらぎのある河川公園を三年計画で整備することが発表されています。

地元住民は大きな期待を寄せていますので、せせらぎ部分だけでも早く整備して、子供達に開放できませんか。

また、せせらぎの水は、現在の金山川から引き込むとのことですが、水の浄化対策はどのようになっていますか。



(仮称) 金山川せせらぎ広場完成予想図

が、水の浄化対策はどのようになっていますか。  
建設局長 金山川の河川公園は、河川改修により不用になった旧河川敷を、豪雨時は遊水池として、平常時は親水広場として活用しようというものです。  
本年度は、旧護岸をかき上げ、川底に砂を置き、自然石を用いて低水護岸の整備を行う予定です。  
槻田や城内のせせらぎ広場は、子供たちに人気があるので、金山川についても来年の夏には、水遊びができるように整備したいと考えています。  
また、水質については、コイやフナの生息には十分適していますが、子供たちが安心して水遊びができるよう砂でろ過し、浄化をしたいと考えています。

### 新空港建設の

#### 波及効果は

**議員** 新北九州空港建設促進期成会は、ジェット機の就航可能な空港の存在が、地域経済の活性化に大きな効果を与えると強調しています。

しかし、空港をつくれればそれだけで活性化し、また、臨空港型の先端産業が進出するわけではありません。

市長は、どのような構想を持っていますか。

また、新空港の建設は国の事業ですが、これに伴う本市の財政負担は相当な額になると予想されます。市財政に及ぼす影響をどのように考えていますか。

**市長** 新北九州空港は、海上空港であるため、航空機の二十四時間発着が可能です。

したがって、旅客はもちろん貨物の輸送に大きな効果を發揮すると考えています。

先端産業の進出については、空港をつくるだけで企業が立地するわけではありません。しかし、空港のもたらす波及効果は、千歳や秋田の例にみられるように、地域経済に与えるインパクトが非常に大きいと報道されています。

空港周辺のアクセス整備については、都市高速道路、幹線五号の拡幅、九州縦貫自動車道の完成により、骨格となるアクセスは整備されると考えています。

なお、空港建設に伴う事業費は、空港位置決定の問題もあり、内部検討の域を出ていません。

厳しい財政事情であるため、他の政策とのバランスも考えて、適切な内容にしなければならぬと思っています。

#### 技術開発の促進を

— 中小企業対策 —

**議員** 市内の中小企業は、自社製品の開発、市外への進出や販路拡大の経験が少ないこと等が指摘されており、その改善が求められています。

市内の中小企業の技術開発のため、県とも協力して研究機構をつくる考えはありませんか。

**市長** 本市では、産業構造の高度化を推進し、経済の活性化を図るため、既存企業の新たな事業展開を促進するとともに、新規企業の誘致に努めています。

特に、中小企業については、下請け体質から脱却し、自主技術、自社製品を有し、市域外にも市場をもつ、自前企業への転換を推進することに重点をおいています。

技術振興に当たっては、産学官交流相談コーナーを設けるとともに、本年度には、県の機関の参加を得て、産学官交流促進会議を設置し、産業界のニーズをもとに、技術開発、情報提供、人材育成などについて、産学官が一致して推進する体制をとっています。

また、県に対し、県の北九州工業試験場にエレクトロニクス等の先端技術分野にかかわる研究指導体制の充実を働きかけています。

今後、国、県とも十分連携して、中小企業の技術開発を推進する体制の整備を進めていく考えです。

## 決算特別委員会の審査から

九月十二日に設置された決算特別委員会は、二つの分科会に分かれ、六日間にわたって審査を行いました。その中から主なものを取り上げました。

### 第一分科会

#### 民間活力の導入を

— 年長者福祉 —

**委員** 高齢化社会の進行に伴い、福祉サービスが必要とするひとり暮らしやねたきり等の年長者が増加し、その需要も拡大、多様化することが予測されます。

今後は、公的部門のみでの対応

は、困難であると思いますが、どのような対策を考えていますか。

**当局** 拡大、多様化する年長者の福祉サービスに対する需要については、行政だけの対応には限界が必要であると考えています。

今後は、行政サービスの充実と併せて、民間活力によるシルバー関連産業の健全育成に努めるとともに、福祉サービスの供給システムをつくっていきたいと考えています。

なお、本市には、民間病院が中心となって、介護サービス、訪問看護等の在宅サービスを有償で実施している事例があります。

### 第二分科会

#### 新設規制の緩和を

— 民営墓地 —

**委員** 現在、墓地に対する市民の要望は、非常に強いものがあります。

本市では、五十二年から民営墓地の新設は許可されていませんが、墓地新設の規制を緩和する考えはありませんか。

**当局** 霊園、墓地の新設について

ては、市としても用地を探していますが、適地がみつからないのが現状です。

そのため、当面の措置としては、既設の墓地を拡張することで対処していきたいと考えています。

民間の業者に対し、安易に墓地の新設を許可した場合、永続性・非営利性の確保、自然環境の保全や防災等の面で問題を生じるおそれがあります。

このため、民営墓地の規制の緩和については、慎重に考えていきたいと思っています。

### 第三分科会

#### 施設の充実を

— アドベンチャープール —

**委員** アドベンチャープールは当初の予想を上回る利用者がおり、その四十パーセントが市外からの利用となっています。

本市の活性化の観点から、施設の充実や規模の拡大を図る考えはありませんか。

**当局** アドベンチャープールは二十六万人の入場者があり、盛況のうちに幕を閉じることができました。

今後の整備については、好評のスライダールの増設やプールサイドの拡張を行い、また木かげをつくることも考えています。

なお、プールのある志井公園は、南側を水の施設、北側を陸のスポーツ施設として、夏季だけでなく一年中利用できるよう整備していく考えです。



第一分科会審査風景